

中東における内生的地域秩序の形成 シリア内戦終結過程を題材に

池内恵

東京大学先端科学技術研究センター教授
創発戦略研究オープンラボ (ROLES) 代表

日本安全保障貿易学会 (JAIST) 第39回研究大会

2025年3月16日 (日)

立命館大学 大阪いばらきキャンパス

中東地域秩序

- 中東の主権国家：正統性の競争
 - ✓ 正統性の不足・欠如
 - ✓ 国家による正統な暴力の独占が必ずしも実現されず：多元的軍事組織の均衡
 - ✓ アイデンティティの多元性、非国家主体にも一定の正統性と実効性
 - ✓ クルド人、シーア派、アラウィー派、ドゥルーズ派、マロン派、ギリシア正教 etc.
- 国境の透過性
 - ✓ 民族主義、イスラーム主義、宗派主義、共産主義等、イデオロギーの国境横断性
 - ✓ 内政干渉の恒常化
 - ✓ 外部勢力からの資源調達が内政の鍵
- 外部の大国からの干渉を前提とした地域国際政治
 - ✓ 米国、ロシア（ソ連）、中国
- 地域大国と有力国の相互の内政干渉を前提とした国内政治
 - ✓ イラン、トルコ、イスラエル
 - ✓ エジプト、サウジアラビア
 - ✓ ヨルダン、UAE、カタール

地域覇権競争とイデオロギー鼎立

- グローバルな覇権と地域の覇権
 - ✓ 多元性と均衡
- 外生的秩序と自生的秩序
 - ✓ 近代主義（欧化主義、自由主義、民主主義、共産主義、米国との現実主義的同盟戦略）
 - ✓ 内在的イデオロギー（民族主義、イスラーム、宗派主義）

中東地域秩序の理論化の試み

- 地域大国の覇権戦略（エジプト、イラン、イラク、イスラエル、シリア、サウジ、トルコ）→地域覇権国なき覇権競争

Competitive Support Seeking：外部の大国の支援取り付け

Ideological Externalization：国外の非国家主体とのイデオロギー（民族主義・イスラーム主義・宗派主義等）による同盟・共依存関係

Ewan Stein, *International Relations in the Middle East: Hegemonic Strategies and Regional Order*, Cambridge University Press, 2021

ポスト湾岸戦争期における中東の米国覇権

- キャンプデービッド合意（1979年）と中東における米国・イスラエル覇権への道；同時にイラン・イスラーム革命と反米・反イスラエル陣営の形成
- ベルリンの壁崩壊
- 湾岸危機（1990年8月2日）→湾岸戦争（1991年1月17日）
- 「新世界秩序」（父ブッシュ一般教書演説 1991年1月）
- マドリード会議（1991年10月）、オスロ合意（1993年9月）
- ポスト冷戦期・ポスト湾岸戦争期の中東における米国の覇権
- 親米政権の主流化・イスラエルの地域への定着

「対テロ戦争」と米国覇権の後退

- 9・11事件（2001）→「グローバルな対テロ戦争」による中東関与
- イラク戦争（2003）→過剰介入と疲弊
- 反米「シーア派の弧」の形成
- 「アラブの春」（2011）→近代主義の圧力への呼応と挫折
- 「イスラーム国」（2014）→内在的イデオロギーの台頭と失望
- 「アブラハム合意」（2020年9月）によるパレスチナ問題の「消滅」
- ガザ紛争（2023年10月7日）と近代主義の国際秩序への幻滅
- イスラエル・イラン対決と均衡の揺らぎ・権力の真空
- シリア内戦の「終結」（2024年12月8日）とトルコの台頭

第1期トランプ政権の中東政策

- 対イラン：最大限圧力政策（2017－2019）
 - ✓イラン核合意からの離脱（2018年5月）
 - ✓イラン系勢力によるサウジ・アラムコ施設へのドローン攻撃（2019年9月14日→UAEアブダビにも2022年1月17日）
 - 衝突回避（2019年9月）
 - GCC諸国の対イラン宥和・域内緊張緩和・イスラエルへの接近
- 対アフガニスタン：ドーハ合意（2020年2月29日）
 - ✓カタール仲介でターリバーンと合意 米軍の安全な撤退を確保
 - ✓ガニー政権を見捨てる（2021年8月15日のカーブル陥落）
 - ✓「バイデン政権の失策」として非難

バイデン政権という「中休み」

- 2017ー2028は「長いトランプ時代」となるか？
 - ✓ トランプ①→バイデン→トランプ②
- オバマ政権（2009ー2017）からトランプ政権②までの一貫した米中東政策のメッセージ
 - ✓ 「世界の警察官」返上
 - ✓ 親米政権を守らず
- バイデン政権のレイムダック期はいつから始まったのか
 - ✓ （狭義には2024年7月21日ー2025年1月20日; 広義には4年間?）
 - ✓ 米のサウジとのアブラハム合意拡張交渉の説得の際の触れ込み「これ以上良い条件が出ることはない」
- ガザ紛争とバイデン政権

第2期トランプ政権の中東政策

- 第1期からの継続か純化か？
- 最大限の圧力のもとでの交渉
- 「取引 (Deal) 」としての外交、「交渉のカード (Cards) 」としてのパワー cf. 対ゼレンスキー (2025年2月28日)
- 資源と投資

トランプの「カード」

- 対イスラエル：「ガザ住民の移住」「ガザ観光開発」案
 - ✓ アブラハム合意の延長・拡大の方向性
 - ✓ 「不動産開発業者」外交の原則
 - ✓ サウジ・UAEの資金でガザを米・イスラエルが共同開発？
- 対ガザ：直接交渉と圧力
 - ✓ 「イスラエルによる攻撃」の脅しを圧力に
 - ✓ カタール・ドーハで米人質解放交渉（ウィトコフ特使）
- イラン：直接交渉と圧力
 - ✓ 「書簡」をUAEを通じて手交

対トランプの「カード」

- 取引（ディール）の仲介能力
- 親米姿勢だけでは低評価
- 反米勢力への仲介が高評価
 - ✓ドーハ合意（ターリバーン）
 - ✓リヤード交渉（ロシア、ウクライナ）
- 中東の仲介国：トルコ（ウクライナ、クルド）、カタール（ガザ）、UAE（ロシア・ウクライナ）、サウジ（ロシア、ウクライナ）、エジプト（ガザ）、ヨルダン（シリア、西岸）

シリア内戦の突然の終結

- 「アラブの春」とシリア内戦
- 「シーア派の弧」へのイランの影響力の伸長
- 「10月7日」とガザ紛争
- バイデン政権のレイムダック化加速→イスラエルの対イラン系勢力の攻撃
- HTSの攻勢・アレppo・ホムス・ダマスカス攻略・南部の呼応

シリア暫定政権をめぐる諸勢力

- 暫定政権・シアラア暫定大統領の国内権力・国際承認に向けて（2024年12月8日ー）
- トルコの勢力圏拡大：HTS支援、クルド勢力の制圧目指す
- イスラエルの対トルコ脅威認識→HTSを通じた間接的な対峙「HTSとその支援国はテロリスト」「少数派の弾圧」「虐殺」を非難、ドルーズ派支援で南部干渉
- イランの反発→アサド政権派の支援・イスラエルとの一致
- クルド問題：トルコ・PKK和平（オジャラン声明2月27日）SDF・HTS合意（3月10日）
- ヨルダンのシリア諸勢力仲介（3月9日）
- 旧アサド政権派のラタキア蜂起と衝突（3月初頭）→「虐殺」の情報・映像「フェイクニュース」の氾濫

中東の地域自生的秩序と外部の超大国

- トルコの台頭→イスラエルで脅威認識高まり
- イランの反攻→イスラエルとの一致
- 米・ウクライナ関係とロシアの中東での復活
- 「少数派」問題：クルド・ドルーズ・アラウィー・キリスト教諸派